

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101118		
法人名	社会福祉法人 康久会		
事業所名	グループホーム レインボー21【きぼう】		
所在地	福井市 高木中央3丁目1601		
自己評価作成日	令和 2 年 8月 17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2年 9月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中、アットホームな雰囲気です。ゆったりと過ごしていただいております。介護度にとらわれず、利用者様一人ひとりの状況に見合ったケアを行い、自立支援に沿った対応で本人の持つ力を奪わないように努めております。季節に合った創作物の作成を行い、壁に貼ったり玄関に並べることで利用者様に季節感を忘れないようにして頂いています。1Fが小規模多機能施設になっており、通われている方と接して頂いたり、時々外に外出に行き、外の様子を見て刺激を得たりして日常の楽しさを感じて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は落ち着いた新興住宅街の中にある。事業所の近隣には公園やスーパー、飲食店があり、天気の良い日には散歩や買い物、外出に出かけられる環境にある。介護職員は法人理念・事業所目標の周知、理解に努め、利用者一人ひとりの状況を把握しながら適切な声掛け・支援ができるように日々研鑽を積んでいる。職員間の関係も良好で、互いに意見を出し合う事も多くサービス向上に繋がっている。また、毎食アンケートを実施することで、利用者が楽しく充実した食事を摂取できるように取り組んでいる。現在はコロナ禍のため中止になっているが、バザーや地区のバーベキュー行事にも参加し、地域住民との良好な関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰所内の目の届く所に理念を貼り、ミーティングの時に読み上げている。	事業所理念・目標を目の付きやすい位置に掲示すると共に、ミーティング時には毎回唱和している。また入所契約時にも家族に理念を伝えている。今後、個人目標を明確にし、意識向上に繋げる予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のバーベキューや小学校のバザーに参加し、近所の方々とふれあっている。	自治会に加入し、公園清掃やバザーへの参加や、中学生の訪問受け入れを行っていた。地域のバーベキューに参加したり、回覧版等で情報収集を行っていたが、現在はコロナ禍のため行事の中止も多く、参加・受け入れができない状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い利用者の状況を伝え、質問にはその都度答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動状況、事故報告などを報告し、話し合いを行っている。	2か月毎に開催しているが、コロナ禍のため現在は書面による事業所の状況報告や意見収集を行っている。議事録を作成し、広報紙と共に各家族に郵送し情報開示を行っている。得られた意見・要望は職員間で共有し、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からのお知らせやパンフレット、新聞の切り抜きなどを玄関に貼るようになっている。	運営推進会議の際に、事業所の状況報告等を通じて連携を図るようにしている。また、介護講習を依頼した事もあり、協力関係づくりに努めている。外部評価の結果等も説明し、伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度身体拘束廃止委員会を開催し、会議の内容をミーティングなどで伝え、職員全員で情報を共有している。	身体拘束廃止委員会を毎月開催し、検討内容はミーティング時に書面にて情報共有を図っている。現在はコロナ禍のため、外部研修等への参加は行っていないが、今後取り組んでいく予定である。安全確保のため夜間帯は玄関施錠を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などで勉強会を行い、言葉遣いにも気を付けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員それぞれが制度を理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は内容を説明し納得してもらっている。法改定などで変更がある場合は一人ひとり説明し疑問点にも答えて納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、利用者や家族の意見や要望を聞き、柔軟に対応出来るように努めている。また、苦情・相談があった時は早急に対応・返答している。	意見箱を設置すると共に玄関には外部評価の結果等を置き、家族が情報収集しやすい環境を整えている。運営会議に出席した際や受診介助(付添)時に意見・要望の聞き取りを行い、早期に対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見を言い易い関係性作りに努め、ミーティングなどで意見を聞いている。	日々のミーティング時に職員からの意見や要望・提案を聞く機会を設けると共に、管理者は話しやすい関係づくりに努めている。また年1回、理事長との面談機会があり、意見や提案ができる機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の昇給があり、その時に代表者と職員個人との面談の場が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年四回行い、その内の一回は外部から講師を招いて研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見の交換などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約を行う前に本人と面談する機会を持ち、困っている事や不安に思う事を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学や申し込みに来られた時に介護状況や困っている事を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申し込みに来られた際の話によっては他のサービスを勧めている。また、早急な対応が必要と感じた時は、他の施設への申し込みを勧め紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗たく物干しなど、出来る事は職員と一緒にやってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に家族の不安や要望を聞くようにしている。受診の付き添いはなるべく家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人、近所の方にも面会に来てもらっている。	入居時に馴染みの関係の情報収集を行うと共に、日々の関わりの中でも情報収集を行っている。現在は面会ができない状況のため、電話の取次ぎ等で関係を継続できるよう努めている。またSNSを活用した面会ができるような環境整備も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮しテーブルの席順を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内に特養があるので、そちらに移られた方は時々面会に行き、職員に様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事の継続、出来ない事への支援、本人のやりたい事をアセスメントしている。ICFを取り入れ本人のしたい事を中心に考えている。	日々の会話や動作から意向や希望を把握し、申し送りノートや毎月実施するモニタリングを通して職員間で情報共有を図りながら、本人本位の日常生活が送れるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの時に本人の生活歴や趣味なども聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックや排泄チェックをし、健康管理に努めている。一日の過ごし方も記録に記入し、少しの変化にも気づくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話などで家族の声を聞き、管理者、担当職員が中心となり、他の職員の意見も取り入れながら計画作成している。	介護職員が2~3名を担当し、来所時や電話での情報提供時に家族から意見や要望を聞くと共に毎月モニタリングを行い、介護計画に反映させている。計画変更は随時行い、適切な支援の提供ができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録に記入し、職員が目を通すようにしている。何かあった時には連絡ノートに記入して見直しに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の要望に応じて受診や買い物への付き添いの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の方がボランティアに来て歌や踊りを見せてくれたり、中学生の職場体験も受け入れている。安全で楽しく過ごせるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合にはそのまま継続して受診してもらっている。変化があった時は受診時に手紙を添えるようにしている。	かかりつけ医に継続受診する事ができている。緊急時には職員が同行するが、基本的には家族の同行をお願いしている。受診時には書面にて情報提供を行い、電話にて指示を仰ぐ事もある。また、往診も受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護職員に身体状態の変化があれば報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しているが、実際そうなった時に改めて説明し、話し合っている。特養や老健施設など他施設の紹介を行っている。	入居契約時に法人としての重度化や終末期に向けた方針を説明している。また、日々の関わりの中で利用継続が困難な状況が見られた場合には、その都度改めて説明を行うと共に病院や福祉施設への入所申込依頼や紹介を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、職員それぞれが読んで勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を行っているが、今年度はコロナウィルス感染拡大防止の為、消防署参加では行えなかった。警備会社の職員に来てもらい、緊急時の対応を学んだ。	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練(火災)を実施している。以前は消防署立会いの下で行っていたが、コロナ禍のため、今年度は警備会社職員から緊急時の対応を学んでいる。備蓄は水のみ行っている。	今後、地域住民との協力体制を構築すると共に備蓄品の充実を図り、火災のみならず多岐にわたる避難訓練を想定・実施する事で、更なる安全確保のための体制を整備していく事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という気持ちで対応し尊厳を大事にしている。記録も家族が目を通すようにしている。	声掛け時には、声の大きさ、トーンを調整し、適切な発言を各職員が心掛けている。職員に不適切な発言があれば管理者が都度注意をしている。ミーティング時には誇りやプライバシーに配慮し、該当者の名前を出さずに情報共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操やレクの声掛けはするが、拒否が強い時は無理強いないようにしている。入浴の曜日は決まっているが、拒否がある方は別の日に入ってもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で日々を過ごしてもらい、職員の基準を押し付けないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回訪問美容師に来てもらい、利用者一人ひとりの意見を聞いて好みの髪型にしてもらっている。ヘアカラーし、いつまでも綺麗にしたいという希望もかなえている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや皿洗い、食器拭きなど、職員と一緒に手伝ってもらっている。利用者の好きな食べ物を聞いておやつ作りも行っている。	毎食後に利用者アンケートをとり、より良い食事提供に繋がれるように努めている。利用者は、盛り付けや食器拭きなど職員と共に出る作業を行っている。おやつ作りや外食の機会もあり、楽しく食事ができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態を考え、食事、水分を摂取してもらっている。栄養士が栄養バランスを考えてメニュー作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、義歯のある方には夕食後に外してもらい、義歯洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間をみてトイレの声掛けをしている。立位のサポートが要る方は介助してトイレで排泄してもらっている。	排泄チェックシートで排泄パターンを把握し、定時や声掛けによるトイレ誘導を行っている。毎日10時には牛乳やフルーツ(ヨーグルト)を提供すると共に定期的に運動する機会を取り入れ、自然排泄ができる環境整備にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中に牛乳やバナナなど便通の良くなる食べ物を摂取し、歩行訓練や体操をして身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽のお湯は一人ひとり入れ替え、清潔なお湯で気持ち良く入ってもらっている。入浴の声掛けをした時に気分が乗らない場合はしばらく時間を空けたり、後日に入ってもらっている。	入浴回数は週2回が基本であるが、利用者のペースに合わせて支援を行っている。同事業所1階には機械浴槽も設置しており、身体状況が変化した場合にも安心して入浴ができる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の居室で休んでいたい方は本人の意思で自由に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬剤情報をファイルに保管し、確認しながら個人ケースにセットしている。服薬時は職員二人で名前確認し飲み終えるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物干し、洗たく物たため、食事の盛り付け、おやつ作りなど出来る事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行ったり、外食に出掛けている。家族と一緒に家に帰ったりもしているが、今年はコロナウィルスの為、外食は出来ていない。	近隣の公園に散歩に出かけたり、2か月毎に外食に出かけていたが、現在はコロナ禍のため日常的な外出支援ができない状況である。	コロナ禍において容易に外出する事は困難であるが、状況が改善した際には利用者の気分転換やストレス軽減のため、以前と同様に外出する機会を確保する事を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでは金銭は預かっていない。外食や買い物をした時は請求書で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウィルスの影響で面会が出来なかった時期は希望される方には電話で話してもらっていた。携帯電話を所持している方は希望の度に渡して家族と会話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は南向きの窓から光を取り込み、眩し過ぎる時はレースのカーテンを閉めて調節している。	安全に行動できるように、利用者一人ひとりの空間も大きく取っている。またフロアの壁には利用者の作品や写真を飾り、落ち着いた雰囲気、過ごしやすい場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや小上がりの畳で独りになれる場所がある。テーブル席では気の合う方と話している。ホールの壁には利用者作の展示物を展示している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物など何でも持って来て良いという事になっている。家族の写真やテレビなど持って来ている方も居られる。	ベッド・タンスは事業所据え置きがあり、テレビ等の馴染みの物を持ち込む事もできる。家族の写真や作成した作品を飾る事もでき、利用者にとって居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに大きく張り紙をして場所が分かるようにしたり、廊下に手すりを付けて歩き易いようにしている。自分の部屋が分かるように表札を付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870101118
法人名	社会福祉法人 康久会
事業所名	グループホーム レインボー21【ひかり】
所在地	福井市 高木中央3丁目1601
自己評価作成日	令和 2年 8月 17日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 2年 9月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中、アットホームな雰囲気です。ゆったりと過ごしていただいております。介護にとらわれず、利用者様一人ひとりの状況に見合ったケアを行い、自立支援に沿った対応で本人の持つ力を奪わないように努めております。季節に合った創作物の作成を行い、壁に貼ったり玄関に並べることで利用者様に季節感を忘れないようにして頂いております。1Fが小規模多機能施設になっており、通われている方と接して頂いたり、時々外に外出に行き、外の様子を見て刺激を得たりして日常の楽しさを感じて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「きぼう」ユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	詰所内の目の届く所に理念を貼り、ミーティングの時に読み上げている。	「きぼう」ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のバーベキューや小学校のバザーに参加し、近所の方々とふれあっている。	「きぼう」ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い利用者の状況を伝え、質問にはその都度答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動状況、事故報告などを報告し、話し合いを行っている。	「きぼう」ユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からのお知らせやパンフレット、新聞の切り抜きなどを玄関に貼るようにしている。	「きぼう」ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度身体拘束廃止委員会を開催し、会議の内容をミーティングなどで伝え、職員全員で情報を共有している。	「きぼう」ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修などで勉強会を行い、言葉遣いにも気を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員それぞれが制度を理解するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は内容を説明し納得してもらっている。法改定などで変更がある場合は一人ひとり説明し疑問点にも答えて納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際、利用者や家族の意見や要望を聞き、柔軟に対応出来るように努めている。また、苦情・相談があった時は早急に対応・返答している。	「きぼう」ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が意見を言い易い関係性作りに努め、ミーティングなどで意見を聞いている。	「きぼう」ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の昇給があり、その時に代表者と職員個人との面談の場が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を年四回行い、その内の一回は外部から講師を招いて研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見の交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約を行う前に本人と面談する機会を持ち、困っている事や不安に思う事を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学や申し込みに来られた時に介護状況や困っている事を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申し込みに来られた際の話によっては他のサービスを勧めている。また、早急な対応が必要と感じた時は、他の施設への申し込みを勧め紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗たく物干しなど、出来る事は職員と一緒にやってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に家族の不安や要望を聞くようにしている。受診の付き添いはなるべく家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人、近所の方にも面会に来てもらっている。	「きぼう」ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮しテーブルの席順を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内に特養があるので、そちらに移られた方は時々面会に行き、職員に様子を聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る事の継続、出来ない事への支援、本人のやりたい事をアセスメントしている。ICFを取り入れ本人のしたい事を中心に考えている。	「きぼう」ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みの時に本人の生活歴や趣味なども聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックや排泄チェックをし、健康管理に努めている。一日の過ごし方も記録に記入し、少しの変化にも気づくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話などで家族の声を聞き、管理者、担当職員が中心となり、他の職員の意見も取り入れながら計画作成している。	「きぼう」ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録に記入し、職員が目を通すようにしている。何かあった時には連絡ノートに記入して見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の要望に応じて受診や買い物への付き添いの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の方がボランティアに来て歌や踊りを披露してくれたり、中学生の職場体験も受け入れている。安全で楽しく過ごせるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合にはそのまま継続して受診してもらっている。変化があった時は受診時に手紙を添えるようにしている。	「きぼう」ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護職員に身体状態の変化があれば報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しているが、実際そうなった時に改めて説明し、話し合っている。特養や老健施設など他施設の紹介を行っている。	「きぼう」ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、職員それぞれが読んで勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、避難訓練を行っているが、今年はコロナウイルス感染拡大防止の為、消防署参加では行えなかった。警備会社の職員に来てもらい、緊急時の対応を学んだ。	「きぼう」ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という気持ちで対応し尊厳を大事にしている。記録も家族が目を通すようにしている。	「きぼう」ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操やレクの声掛けはするが、拒否が強い時は無理強いしないようにしている。入浴の曜日は決まっているが、拒否がある方は別の日に入ってもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で日々を過ごしてもらい、職員の基準を押し付けないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回訪問美容師に来てもらい、利用者一人ひとりの意見を聞いて好みの髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや皿洗い、食器拭きなど、職員と一緒に手伝ってもらっている。利用者の好きな食べ物を聞いておやつ作りも行っている。	「きぼう」ユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態を考え、食事、水分を摂取してもらっている。栄養士が栄養バランスを考えてメニュー作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、義歯のある方には夕食後に外してもらい、義歯洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間をみてトイレの声掛けをしている。立位のサポートが要る方は介助してトイレで排泄してもらっている。	「きぼう」ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中に牛乳やバナナなど便通の良くなる食べ物を摂取し、歩行訓練や体操をして身体を動かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽のお湯は一人ひとり入れ替え、清潔なお湯で気持ち良く入ってもらっている。入浴の声掛けをした時に気分が乗らない場合はしばらく時間を空けたり、後日に入ってもらっている。	「きぼう」ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の居室で休んでいたい方は本人の意思で自由に戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬剤情報をファイルに保管し、確認しながら個人ケースにセットしている。服薬時は職員二人で名前確認し飲み終えるまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物干し、洗たく物たたみ、食事の盛り付け、おやつ作りなど出来る事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園に散歩に行ったり、外食に出掛けている。家族と一緒に家に帰ったりもしているが、今年はコロナウィルスの為、外食は出来ていない。	「きぼう」ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでは金銭は預かっていない。外食や買い物をした時は請求書で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナウィルスの影響で面会が出来なかった時期は希望される方には電話で話してもらっていた。普段も電話をかけたいと希望される方には電話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は南向きの窓から光を取り込み、眩し過ぎる時はレースのカーテンを閉めて調節している。	「きぼう」ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや小上がりの畳で独りになれる場所がある。テーブル席では気の合う方と話している。ホールの壁には利用者作の展示物を展示している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物など何でも持って来て良いという事になっている。家族の写真やテレビなど持って来ている方も居られる。	「きぼう」ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに大きく張り紙をして場所が分かるようにしたり、廊下に手すりを付けて歩き易いようにしている。自分の部屋が分かるように表札を付けている。		